

ふ・れあひ
Human ♥ Communication

2015
7月・夏号

Vol.21

人と心に響き合う
清恵会グループ広報誌

FREE

ご自由に
お持ちください



特別企画 清恵会
創立45周年

45TH ANNIVERSARY

～みなさまへの感謝とごあいさつ～

理事長 佐野 記久子

「医心伝心」

清恵会病院 内科副部長 星本 真弘

 社会医療法人 清恵会

特別
企画

清恵会創立45周年

みなさまへの感謝とごあいさつ

理事長 佐野 記久子

2015(平成27)年7月15日、社会医療法人清恵会は創立45周年を迎えます。

これもひとえに地域の皆様のご支援、ご協力の賜と深く感謝いたしております。

また、10月1日には、清恵会病院と清恵会三国丘クリニックが統合の上、市立堺病院跡地へ移転いたします。

そこで今回の特集は、理事長・佐野記久子が皆様へのごあいさつとして、清恵会45年の歴史を足早に振り返り、そして新しい清恵会病院について、その特長などをご紹介いたします。

これを機に、より広域の地域医療に貢献し、さらに堺市民の皆様に信頼される病院を目指して一層努力してまいりますので、今後とも清恵会を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



清恵会の原点

今から45年前、1970(昭和45)年といえば、大阪の千里丘陵で開催された日本万国博覧会に日本中が熱狂する一方、長期間続いた高度経済成長長期が終わりを告げようとしていた頃です。社会は豊かになりました。

したが、公害の発生や交通事故の増加など、急速な発展によるひずみも見られました。生活習慣の変化からか、死に至る疾患も増え続け、社会の救命救急に対する要請が日増しに高まる——そんな時代でした。

清恵会の創設者である佐野恵は、堺市の民間病院に勤務する医師でした。患者様と日々接する中、救急医療の必要性を肌で感じたのでしよう。当時少なかった私立の救急病院をつくろうと一念発起し、苦労の末に、この清恵会病院を開院します。当初はベッド数87床の小規模な病院でしたが、そこから1985(昭和60)年に急逝す

るまでの15年間、佐野は職員とともに、まさに24時間、寝食を忘れて救急医療に奮闘しました。

年には「社会医療法人」の認定を受けました。救急から在宅までを一貫して行う病院は他にもありますが、清恵会の場合、例えば急性期の治療を終えてリハビリテーションに移行する際、遠方へ転院する必要があるりません。医療ネットワークのすべてが堺市内にあるという地域密着型が清恵会グループの大きな特長です。



地域とともに

創立当初より堺市に根ざす清恵会は、診療以外にも、さまざまな形で地域との交流を深めてきました。

ひとつは、やはり地域の開業医の先生方との連携です。患者様により良い医療を効率的に提供するためには、拠点となる病院と地域の診療所が協力し合う病診連携が重要です。

そのため清恵会では、1987(昭和62)年に開業医の方を対象とした「学術講演会(現・地域医療連携懇談会)」を開催するなど、早くから連携を図り、

45TH ANNIVERSARY



私も運行いたします。私たちは時代の変化と地域ニーズの変化に答えながら、職員一同、良質で安全な医療をこれからも提供して、より多くの堺市民の皆様信頼される病院を目指してまいりますので、今後ともよろしくご支援の程お願い申し上げます。

清恵会が選ばれた一番の大きな理由は、救急医療、急性期医療から在宅医療まで、総合的な診療体制を備えているという点でした。これを機に、これまで以上に充実した診療環境を整え、さらに地域医療に尽力していきたいと、決意を新たにしているところです。

移転はいたしますが、場所が変わるといよりは、診療圏が広がるのと私たちは考えています。市立病院の跡地を継ぐ病院として、行政や市民の方々の期待も、責任も大きいと思います。駅から少々遠くなり、患者様にはご不便をお掛けいたしますが、三国ヶ丘駅・堺東駅と新病院を結ぶ無料の送迎バスも運行いたします。



清恵会主催の「健康まつり」



清恵会病院市民公開講座(堺市産業振興センター)

協力体制を構築してきました。もうひとつは、市民の皆様との交流です。地域の皆様の健康を守る病院として、病気の知識や予防法などをアドバイスする「健康講演会」、産婦人科では「母親学級」、小児科では「親子を対象とした「育児相談」、

子どもたちも楽しめる夏祭りの要素を取り入れた「健康まつり」など、さまざまな催しを80年代後半から始めていました。もちろん現在も、病気の予防法や健康法をテーマにした「市民公開講座」や「BLS(一次救命処置)講習会」を定期的に開催している他、「堺シティマラソン」やサッカー大会に医療協力するなど、地域の皆様とのふれあいを大切にしています。

さらなる 地域医療への 貢献を目指して

ホームページでご報告しております通り、清恵会病院は本年



小学校での救急蘇生法の講習会

新しい 清恵会病院の特長

新しい清恵会病院は、敷地面積が現在の約5倍という広さです。駐車場も広々としています。講堂も備わっていますので、より頻度を上げて「市民公開講座」を開催したいと考えています。もちろん医療設備や診療機能も拡充する予定です。例えば、清恵会病院の大きな強みであるER(救急救命室)は、受け入れ体制をさらに強化するために、ICU(集中治療室)の拡充に加えてSCU(脳卒中の集中治療室)を新たに設置する計画です。手術室の数も現在の倍になり、外科系診療科が効率よく診療を展開することができるよう。また、休止していた産科、泌尿器科、耳鼻科などを再開するとともに歯科口腔外科を新設します。すべてにおいて、医療の質の向上を追求していきます。そして何よりも、民間の医療機関としての利点を生かし、小回りの利く、親しみやすい病院であり

10月1日に市立堺病院跡地へ移転することになりました。

これまでの経緯を簡単にご説明いたしますと、堺区南安井町にある市立堺病院が、移転に伴って土地と建物の後利用事業者を募集したのが4年前、2011(平成23)年7月です。私たちは、念願であった清恵会病院の拡充が実現できるチャンスと考え、準備を整えて名乗りを上げました。そして厳正な審査の結果、同年11月に清恵会が選定され、翌年3月に堺市議会でも承認されました。この秋、清恵会病院は清恵会三国ヶ丘クリニックと診療機能を統合して、新たに移転開院いたします。



「堺シティマラソン」での救護支援

たいと考えています。

変わることに 変わらないこと

「人の命は地球より重い」というのが創設者の口癖でした。「いつでも、どこでも、どなたでも」が信念でした。その思いを清恵会は受け継ぎ、今日に至るまでかたくなに守り続けてきました。それは、時代が移り変わるうとも、新病院になろうとも、変わることはありません。清恵会は、これからもずっと、患者様本位であり続けます。



清恵会 理事長
佐野 記久子

1970年の創立当時から財務を担当する。1985年、理事長に就任。現在に至る。

清恵会 45年の歩み ～おもなできごと～

1970 昭和45年 7月
清恵会病院開設 (病床数87床)
▲新築工事中の清恵会病院

1971 昭和46年 12月
医療法人清恵会設立

1975 昭和50年 9月
清恵会高等看護学院開校 (2年課程・定時制・昼間)

1976 昭和51年 8月
清恵会病院が民間病院で初のCT導入

1977 昭和52年 4月
清恵会第二医療専門学院開校
理学療法士科、放射線技師科 (1部・2部)

1978 昭和52年 9月
清恵会病院第2分院 (リハビリテーションセンター) 開設 (病床数114床)

1979 昭和54年
清恵会医療専門学院の
新校舎落成式

1980 昭和55年 7月
滋賀県愛知郡愛東町に
清恵会近江温泉病院開設 (病床数480床)
のち、1993年に移譲

1983 昭和58年 6月
清恵会病院が救急病院を
定める厚生省令に基づく
救急告示医療機関として認定

1985 昭和60年 7月
堺大魚夜市に
救護支援を開始

1986 昭和61年 4月
堺シティマラソンに
救護支援を開始

1987 昭和62年 7月
堺ラグビースクールに救護支援を開始

1987 (昭和62)年
清恵会主催の学術講演会

1987 昭和62年 9月
救急の日、健康展を高島屋堺店で開催

1987 昭和62年 11月
開業医の先生方を対象とした
学術講演会の開催を開始

1997 平成9年 4月
清恵会訪問看護ステーション開設

1999 平成11年 8月
清恵会介護支援ステーション開設
のち、2004年に廃止

2002 平成14年 6月
FIFAワールドカップ
KOREA JAPANにおける
医療協力

2004 平成16年 10月
清恵会病院が基幹型臨床研修病院として指定

2004 平成16年 11月
清恵会三宝病院開設 (第1分院・第2分院の統合 病床数300床)

2004 平成16年 12月
清恵会向陵クリニック開設

2005 平成17年 10月
清恵会三国丘クリニック開設

2011 平成23年 5月
清恵会病院が東日本大震災に
おけるJMAT (日本医師会災害
医療チーム) に参加

2011 平成23年 6月
通所リハビリテーション
「さんさんデイケア三宝」開設

2012 平成24年 12月
訪問リハビリテーション
「きらきら訪問リハ三宝」開設

2014 平成26年 1月
社会医療法人に認定

国内で初めて
パンダの繁殖に成功



医心

医の最前線から 第二十一回

伝心



星本真弘
清恵会病院 内科副部長
1994年、大阪医科大学医学部卒業。武田総合病院消化器内科、大阪医科大学第2内科等を経て、2003年に清恵会病院へ入職。日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構のがん治療認定医。大阪医科大学内科学教室II 臨床教育准教授。

異変を感じたら早めに検査を。40歳を超えたら定期的に検査を

内視鏡による検査と治療

消化器、消化器内視鏡を専門としています。分かりやすい例でいうと、胃カメラや大腸カメラでの検査、検査で発見した腫瘍の内視鏡切除、胆管や膵管にできた石の除去などです。その昔、私が進路を考えている頃、ちょうど内視鏡は検査だけでなく治療が行われつつあるときで、「内視鏡でがんを治せる時代が来るのだ」と大いに希望を持ち、進路として選択したわけです。

消化器疾患は、早い段階で見つければ、大抵治すことができます。小さな病変なら内視鏡で治療できますし、その後は外科手術もあります。早い段階で治療し、そして、きちんと治すことができたときは、患者さん同様に私たちも嬉しいものです。消化器のがん、胃がんも早期発見・早期

治療で治せる場合が多いですね。検査を受ければそれが可能なのに、わが国の検査受診率は残念ながら低いのが現状です。内視鏡検査に対する心理的なハードルが下がってくれば、と思います。胃カメラや大腸カメラでの検査は、昔と比べれば比較的楽になっていますので、異変を感じたら早めに検査を受けてください。症状がなくても、40歳を超えたら定期的に検査することをお勧めします。

院内外での活動。 休日の過ごし方

院内では、若い医師の指導、研修医の教育の他、清恵会医療専門学院へ行き、看護学生たちに消化器部門の講義を行っています。院外では、内科学会の依頼で内科指導医の資格を目指す人への教育や、堺市医師会の依頼で開業



いつも支えてくれる医療スタッフとともに
(大阪・法善寺横丁にて。本人、前列左から2番目)



ナース・フェイス Nurse Face

私の看護、私の思い



樽井 美佐子
清恵会三国丘クリニック 看護師

冷静に誠実に対応できる自分でありたい

三国丘クリニックでは内科、整形外科の専門外来、リハビリテーション科の診療を行っています。内科、整形外科ともに待合室は広く、雰囲気も明るいです。

私たち看護師は、患者様にスムーズに受診していただけるよう診察前の採血などの検査や処置を適切に行うと同時に、こちらからコミュニケーションを図り、患者様の不安を軽減するよう心がけています。診察後には、医師の指示のもとに注射、検査説明、入院案内

などを行います。当日入院の指示があれば、入院時の各種検査や点滴のための血管確保なども行います。できる限り患者様に苦痛を与えないよう配慮が必要です。スタッフ間は連携も良く、笑顔のある職場です。

看護師になるきっかけとなったのは、中学生の頃、祖父が脳梗塞を発症したときだったと思います。まひがあり、介護が必要になりました。その介護に苦痛ではなくやりがいを感じた私は、その後、看護師を目指しました。看護師になった今、患者様の笑顔と「ありがとう」の言葉が私の原動力になっています。

先日、内科の待合室で容体が急変した患者様がいらっしゃいました。スタッフ数名でベッドに移動させ、処置を行いました。入院にはなりませんが、その後、ご家族にお会いしたとき、「あのときは本当にありがとうございました。おかげさまで明日退院します」と声をかけていただき、嬉しく感じました。看護師で良かったと思います。これからも、常に冷静に、そして誠実に対応できる看護師でありたいと思っています。



准看護学科 35期生
本土 香織

平日の平均的なスケジュール

- 5:30 ● 起床・朝の準備
- 6:50 ● 移動
- 8:20 ●



学校

- 16:00 ●
- 17:00 ● 移動が準備
- 仕事... 清恵会病院で看護補助者として働く
- 20:00 ● 移動・帰宅
- 22:00 ● 自分の時間
- 1:00 ● 就寝



少しでも時間があれば、子どもと過ごします!

学生

仕事、学校、そして子育て

准看護師を目指そうと思っただけは、子どもの存在です。子どもが小さいと、どうしても病院にかかることが多く、病院で接していただいた看護師さんたちに、とても魅力を感じました。

今は、清恵会病院で看護補助者をしながら、清恵会医療専門学院に通っています。仕事と学校、そして子育てと、毎日がハードでつらいときもありますが、家族や、同じ境遇にある学校の友人たちに支えられて、明るく前向きに頑張ることができています。

学校の勉強はすべてが専門分野であり、教科数も多くて難しいのですが、それだけ看護師という仕事は専門的知識や技術が必要で、責任があり、やりがいのある仕事なのだと感じています。実習中もまだまだ悩むことが多いのですが、先生方の助言やクラスメートの支えに救われることが沢山あります。

来年の春にはクラス全員で白衣を着て、患者様の前に堂々と立つことのできる准看護師になりたいという頑張ります。



ブルーのユニフォームが看護補助者です。この日はうつ病について勉強しました。

勉強会のテーマの一例

- 「食事介助」「手浴足浴」「口腔ケア」「体位変換」といった日々の業務ケアについて
- 「糖尿病」「高血圧」などの疾患について
- 「褥瘡(床ずれ)の予防と対策」など

勉強に取り組む看護補助者たち

看護部 4B病棟

清恵会三宝病院の4B病棟は、看護師17名、看護補助者14名のスタッフで働いています。看護補助者は、患者様の身の回りのお世話などをする、患者様にとって身近な存在です。もちろん看護補助者も医療チームの一員であり、約60名の患者様のお世話をすることは欠かせない存在です。

看護補助者は看護師とは異なり、これまでの経験も年齢もさまざまなため、知識や技術に個人差があります。そのため、4B病棟では従来の集合教育とは別に平成22年から病棟内で、看護補助者の勉強会を開催しました。

1年目は指導者クラスの看護師が看護補助者を対象に勉強会を実施しましたが、2年目からは看護師と看護補助者がチームを組み、看護補助者が主体と

なつて実施しました。3年目以降は看護補助者だけでチームを組み、看護師長の参加のもとに行っています。

勉強会のテーマは、興味や疑問があること、いま学びたいことなど、自分たちで決めます。そして、勉強会担当の看護補助者が資料をもとに発表し、質疑応答を行い、学びを深めていきます。

この勉強会を行うことで、普段行っているケアの必要性や重要性にあらためて気づくことができ、より正しい知識と技術を身に付けることができました。

今年度も6回の勉強会を予定しています。介護の大切な担い手である看護補助者がより成長し、自信と誇りを持って仕事と向き合えるよう、そして患者様との関わりを通して大きなやりがいを感じられるよう、今後とも継続していきたいと思っています。



先生
准看護学科 専任教員
渡邊 安奈

考える力を育てる

私は、看護師を目指して3年過程の看護専門学校を卒業しました。そのため、看護学科の担任という話を頂いたときは、正直戸惑いました。クラスの平均年齢が私の年齢とほぼ同じであることも不安要素でした。

そんな私が今、学生たちと関わっていく中で一番大切だと感じていることは、「待つこと」です。学生たちを指導すると、どうしてもすぐに変容を求めてしまいがちですが、すぐに結果が出ることはあまりありません。気長に時間をかけることも教育には大切なことだと感じています。

医療現場は目まぐるしく発展しており、それに伴い、看護師に求められることもより高度になっています。そんな中で、学生たちの「考える力」を育成することが、これからの大きなキーポイントになると思っています。

「考える」ということが、患者様の安全を守り、ひいては自分自身を守ることもつながります。すぐにすべての学生に伝えることは易しくありませんが、気長に、しっかりと伝えていこうと思います。そして、患者様の前に立つて恥ずかしくない准看護師になりたいと思います。

学生たちの未来 先生たちの今

清恵会グループには、二つの医療専門学院があります。夢と希望と決意を胸に、明日の医療界を目指して毎日頑張っている学生たちがたくさんいます。その学生たちをサポートする先生たちもまた、情熱と愛情と使命感に溢れています。そんな学生と先生の学院生活をご紹介します。

クローズアップ!

清恵会の仕事見せます



清恵会病院 検査科
臨床検査技師 田村 志乃(左)
臨床検査技師 小松 真由子(右)

入職2年目コンビの田村と小松が、尿検査についてご紹介します。

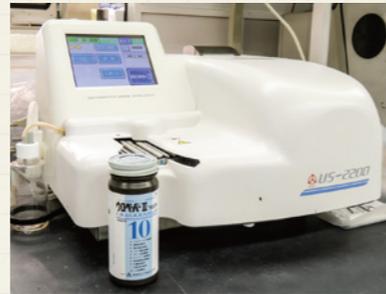
vol.8 尿スクリーニング検査

尿は、苦痛を伴わずに採取できるため、よく検査に用いられます。健康かどうか。体調を崩している場合、どこにどのような異常があるのか。——それを知る重要な手がかりの一つが尿の検査です

Q 尿検査で何がわかるの?

A. 実に色んなことがわかります

現在、尿で数十種類の項目を検査することができます。しかし病院では一般的なスクリーニング検査を行います。スクリーニング検査は、紙コップに入った尿に試験紙を浸し、その試験紙を専用の機械で読み取って、身体の異常を示す成分が出ていないかを調べます。主に蛋白(腎疾患)・糖(糖尿病)・ビリルビン(肝・胆道系疾患)の有無、潜血(腎臓や尿路系の結石、炎症や腫瘍)などの有無を見ます。これら一つ一つは比較的簡単に検査ができ、全体を総合すると大変役立つ情報が得られます。また尿検査は、尿の内容物が最も濃い早朝に採取するのが良いとされています。



▲尿試験紙の自動分析機。家庭用ファクシミリくらいの大きさです。



▲試験紙をセットしてスタートボタンを押すと、1分ほどで検査結果が出ます。



▲尿試験紙。色の変化などを見ます。

Q 大人と乳幼児の尿って違うの?

A. 一言でいうと、濃度が違います

乳幼児の腎臓は尿の濃縮能力が弱い、ということがいえます。ここで、尿が作られる仕組みを簡単にご説明しましょう。

血液が腎臓を通過する際に、腎臓の中の「糸球体」というところで血液が濾過されて原尿ができます。これは1日に排泄される尿の約10倍くらいの量です。次に、原尿は「尿細管」というところに向かいますが、この尿細管で、体内で使える成分と水分が体の中に再吸収され、残りが尿として排泄されます。

乳児期は、こうした一連の機能が未熟なので、濃い尿をつくることができません。大人のような尿の濃縮力がつくのは2歳を過ぎてから。この頃になると、濃い尿をつくる能力はほぼ大人と同じレベルに達します。

夜尿症とは?

2~3歳頃から昼間のオムツが取れ、その後、夜間のオムツが取れるようになり、5歳頃には排尿習慣が身につくといわれます。5~6歳を過ぎても月に数回以上、夜寝ている間におもらしをしてしまうことを、医学的に夜尿症といいます。6歳の10~20%、小学校高学年の5~10%に見られます。

原因は?

夜眠っている間につられる尿量と、膀胱の大きさとのバランスがとれないために起こります。それらは3つのタイプに分けられ、**夜間尿量が多過ぎる**、あるいは**膀胱が小さ過ぎる**、または**その両方が存在する**場合です。冷え、便秘、ストレス、泌尿器科的疾患、遺伝的要因(片親が夜尿症で40%、両親が夜尿症で90%に発症)なども夜尿症の原因となります。



検査、治療は?

ご家族の協力のもと**夜尿日記**をつけていただきます。**夜尿の有無、がまん尿量**(漏らす寸前までおしっこを我慢した時の尿量で、膀胱容量に近似します)、**夕食から寝までの水分摂取量、夜間尿量**などを記録することにより夜尿症のタイプを把握し、生活指導の参考となります。

生活指導って?

- 昼間に十分な水分を取り、夕方からは控えます。
- 塩分の取り過ぎを控えます。
- 寝る前に排尿する習慣をつけます。
- 便秘対策や、冬季においては冷え対策を行います。



など、お子さまのタイプに合わせた指導を行います。生活指導で改善が見られない場合は薬物療法、アラーム療法※などを行います。

※アラーム療法=下着に付けたセンサーがおねしょの水分を感知して警報が鳴り、睡眠から目覚めさせるという行動療法。睡眠中の膀胱容量を増大させ、朝まで持つようにするものです。薬を使わない療法ですが、根気が必要とします。

健康と美容のワンポイント! アドバイス

~その9~ 「おねしょ(夜尿症)」

清恵会病院 小児科 堀内 剛



夜尿症治療の3原則は「夜起こさない」、「焦らない」、「叱らない」です。夜尿がなかった朝は褒めてあげてください。



清恵会病院小児科では一般外来にて夜尿症の診療を行っています。お子さまと二人三脚で、じっくり取り組みましょう。

Topics

2015年10月1日

清恵会病院・三国丘クリニックが移転開院いたします

清恵会病院・清恵会三国丘クリニックは診療機能を統合し、平成27年10月1日、市立堺病院跡地へ移転開院いたします。現行の診療機能はそのまま移行いたします。

救急医療を充実

診療科は歯科口腔外科を新設
産科、泌尿器科、耳鼻科を再開

新病院でも引き続き救急医療に力を入れています。救急診療部門であるER(救急救命室)の機能をより一層高め、ICUの充実やSCU(脳卒中ケアユニット)を新たに設置して、緊急性や重症度の高い循環器疾患、脳卒中の受け入れ態勢を強化する計画です。

また、歯科口腔外科を新設。休止していた産科、泌尿器科、耳鼻科を再開いたします。

外科、整形外科、脳神経外科は、現在、常時緊急手術に対応できる体制が整っています。移転後は手術室が増え、より多くの手術の対応に努めます。

【現在の診療科】

内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、婦人科、眼科、放射線科、麻酔科(梁宗哲)、リハビリテーション科、救急医療部、手外科マイクロスージャリーセンター、フットケアセンター、腎センター

市民講座などで予防医学も推進

地域の方々のコミュニケーションを図り、健康への意識を高めていただく取り組みとして、これまで総合福祉会館などで定期的に市民公開講座を開催してきました。新病院に移転後は、院内の講堂を利用し、より頻度をあげて開催していく予定です。



新住所

堺市堺区南安井町1丁目1番1号
(市立堺病院跡地)

アクセス

バスの場合：南海バス「栄泰橋(旧市立堺病院前)」下車すぐ
電車の場合：南海高野線堺東駅 徒歩18分
南海本線堺駅 徒歩25分

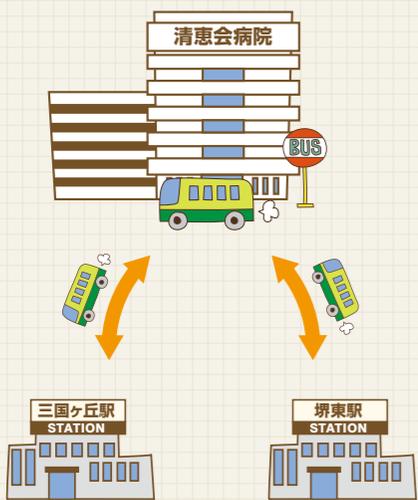


Q 駅から遠くなるけどバスは出るの？



A 三国ヶ丘駅・堺東駅と新病院の送迎バスを運行します

三国ヶ丘駅⇄新病院、堺東駅⇄新病院を結ぶ路線で患者様専用の無料送迎バスを運行いたします。



Q 他に何か便利になることはあるの？



A 院内のローションでお買い物、カフェでお茶もできます。

病院を利用するあらゆる方のニーズを考え、病院の館内にコンビニエンスストア「ローソン」とフランチャイズチェーンの「カフェ・ド・クリエ」を誘致。アメニティの充実に努めます。



LAWSON

移転に関する情報は、

Webサイトなどで随時ご案内いたします。

お問い合わせは...

地域連携室...072-25118199まで

清恵会グループのご紹介

清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁2番10号

清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁2番11号

清恵会三国丘クリニック

専門外来【予約制】

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁4番10号

清恵会本部

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号

いずれも ☎ 072-251-8199(代)

清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・
訪問リハビリテーション

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号

☎ 072-257-6074

清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番地の1

☎ 072-226-8131(代)

さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番地の1

きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ 072-225-0066

清恵会医療専門学校

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地

☎ 072-259-3901

清恵会第二医療専門学校

理学療法士・
診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁5番9号

☎ 072-222-6226

清恵会グループの
WEBサイトもご覧ください



<http://www.seikeikai.or.jp/>

清恵会病院が、病院機能評価の認定を受けました

一般病院2：機能種別版評価項目3rdG：Ver.1.0



病院機能評価事業とは、「医療機関が質の高いサービスを提供していくための支援を行うこと」を目的として、第三者機関である社団法人「日本医療機能評価機構」が厳正な審査を行い認定しているものです。清恵会病院は2010年6月に「一般病院 Ver.6」の認定を受け、2015年6月、更新審査で新たな枠組みである「一般病院2：機能種別版評価項目3rdG：Ver.1.0」の認定をいただくことができました。

ご愛読ありがとうございます。次号(10月1日発行)はお休みさせていただきます。次回発行は2016年1月15日です。